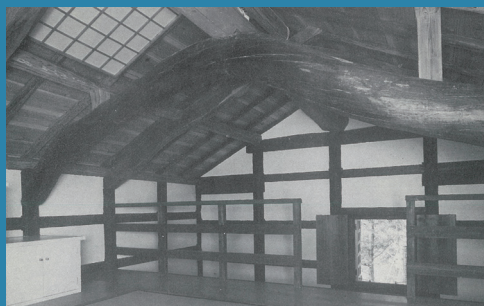




喜多見^{きたみ}7丁目にあった置屋根形式^{おきやね}の瓦葺きの土蔵です。浦野家は江戸時代末期から油屋、炭屋等の商売を始め、喜多見でも有数の資産家になったといわれています。

この土蔵の大きな特徴は、小屋^{はりぐみ}の梁組に牛梁^{うしはり}と呼ばれる曲り梁^{まがはり}を巧みに用いているところです。江戸時代末期より民家に曲り材を利用し、大工の技量を示す傾向が強くなりますが、当土蔵でも大胆に曲り材^{ぎりようき}を使用し、意匠的にも極めて優れたものになっています。



蔵内のようなす

きゆううらのけじゆうたくどぞう
旧浦野家住宅土蔵
世田谷区指定有形文化財